



ガリガリ君 E-mail 通信

令和 7 年 9 月 (第 203 号)

下水道既設管路耐震技術協会

暑い日が続く中、事故が多発しています。今月はこれらの事故情報、下水道展の出展報告、宮崎市でのシンポジウムへの参加、令和 6 年度末の汚水処理人口普及率についての情報をお送りします。

○ 今日は「防災の日」です

今年の防災の日は 1923 年の「大正関東地震（関東大震災）」の発生から 102 年目となります。防災の日は 1960 年と比較的最近に定められたもので、その後 1982 年に防災週間(防災の日の前後 1 週間—今年は 8 月 30 日～9 月 5 日)が加わりました。

この日や期間に合わせ、国・自治体や様々な組織で防災訓練や防災関連行事が開催されます。国土交通省では、本日、国土交通大臣を本部長とする緊急災害対策本部により、情報伝達訓練や職員参集訓練などが実施されます。また、東京都では 7 月に震災対策の図上訓練、8 月 29～31 日に多摩地区で総合防災訓練など、様々な災害を想定した訓練が時期をずらしながら実施されます。また、高知県は 6 月 1 日、宮城県は 6 月 11 日、富山県は 9 月 28 日など、県の防災の日や状況に合わせて実施されており、市レベルでも多くの市で実施されています。

皆さんも、地元や職場での防災訓練に是非参加してみてください。

○ 死亡事故が多発しています

8 月 2 日、埼玉県行田市で、下水道管内の点検作業をしていた作業員 4 人が死亡する重大事故が発生しました。

本作業は、同じ県内八潮市の大規模な道路陥没事故を受け、国土交通省による緊急点検の実施の要請を受け実施していたものです。当日は、事故現場となったマンホールから調査のための管内排水作業中でした。

排水作業を始めたところ、急激に硫化水素濃度が上昇しガス検知器の警報が鳴ったため、いったん排水作業を中止し作業員が退避しました。その後警報が止んだため、管内の状況を確認に作業員 1 名が管内に入ったところ途中で管内に転落し、他の作業員 3 名が助けに向かったところ、3 名とも管内に転落したとみられています。この段階で管内の硫化水素の濃度は 150ppm 以上を示していました。警察の見解では、最初の 1 人が硫化水素を吸引して転落し、溜まっていた下水が攪拌され更に高濃度の硫化水素が発生したようで、4 人とも硫化水素の中毒と中毒に伴う窒息が死亡原因でした。

この他、今年度に入って建設工事や維持管理作業中の死亡事故や負傷事故がこれまでに 3 件発生しています。

- ① 4 月 3 日、熱海市の下水処理場において、汚泥処理作業中に発生した硫化水素により、作業員 2 名が硫化水素による中毒症状を呈し、1 名が緊急搬送される
- ② 6 月 3 日、福岡県柳川市の汚水幹線築造工事の推進管工事の立坑で、作業員が 8.5m 下に転落し死亡
- ③ 8 月 4 日、東京都東大和市で、シールド工事で発生した泥土の運搬車が自転車と接触し、自転車の運転者が死亡

まだ暑い日が続きそうで、作業中は注意力が散漫になり事故が起きやすくなりますし、また熱中症も心配されます。休憩時間の確保、水分の補給など、暑さ対策、体調管理により事故防止に万全の注意を払ってください。

○ 下水道展 '25 大阪 出展報告

8 月号の速報版でお伝えしましたが、下水道展 2025 大阪が無事に終了しましたので、出展結果をお知らせします。

1 開催状況

前回の大阪開催時は、コロナ感染流行時のため入場者数が低調だったのに比べ、今回は昨年の東京開催に迫るほど非常に活況のうちに開催されました。

最終的な来場者数は表-1 に示すように総入場者数 43,016 人で、一般入場者や出展者の重複がないよう入場者証、出展者証に付けられた QR コードによるカウントにより、単純な比較はできませんが、昨年東京開催時の 49,029 人の約 88%の入場者、コロナ感染流行の真ただ中の前回 2021 大阪開催時 12,825 人の 3 倍以上の入場者数を記録しました。

表-1 入場者数(人)

		7月29日(火)	7月30日(水)	7月31日(木)	8月1日(金)	計
全体入場者数	25 大阪	10,109	11,556	11,746	9,605	43,016
	24 東京	10,831	12,964	13,591	11,641	49,029
本協会ブース 来訪者数	25 大阪	59	85	72	40	256
	24 東京	92	111	118	67	388

本協会ブースへの来訪者数は 256 人と、前回東京開催時 388 人の 0.66 ですが、グループ単位での来訪者や大阪市が市民向けの記念品の配布を行ったためか、子供・一般来訪者が多く、前回東京開催時が非常に少なかったのとは対照的で、それなりに賑わいがありました(写真-1~3)。



写真-1 協会ブース全景

2 協会ブース来訪者の内訳

表-2 に示すように、協会ブースへは 256 人の来訪者がありました。職種別の内訳をみると次のようになっています。

- ・国・地方公共団体の来訪者は東京開催時の 72%でしたが、来訪者数に占める割合としては高くなっています。
- ・他の協会・団体が前回の 1.5 倍と大幅に増えています。

- ・建設業が 23 名と大幅にすくなくなりましたが、会員の来訪者数が大幅に少なかったことによるものです。
- ・コンサル、製造業、一般・海外・報道については昨年度に近い構成比となっています。

表-2 協会ブース来訪者の内訳

所属・業種	2025 大阪	2024 東京
国・地方公共団体	67 (26)	93 (24)
他の協会・団体	66 (26)	44 (11)
建設業	23 (9)	112 (29)
コンサル	43 (17)	64 (17)
製造業	32 (13)	43 (11)
一般・海外・報道	25 (10)	32 (8)
合計	256 (0.6)	388 (0.8)
全体入場者	43,016	49,029

() 内、本協会ブース来訪者の所属・業種別の構成比 (%)

() 内、全体入場者に占める割合 (%)

3 来年の下水道展

来年度の下水道展は、会場が東京に戻り東京ビッグサイトで 8 月 4 日(火)～ 7 日(金)に開催される予定です。

○ 「地盤工学会九州支部・グリーンイノベーション宮崎」で講演しました

8 月 21 日(木)、地盤工学会九州支部とグリーンイノベーション宮崎共催によるシンポジウムが宮崎大学内コンベンションホールで開催され、本協会から二つのテーマで技術発表を行いました。

シンポジウムは、国土交通省九州地方整備局から 15 名、宮崎市から 10 名、延岡市から 4 名の他、宮崎大学関係者、コンサルタント、施工事業者など、66 名を上回る関係者が出席し開催されました(写真-4)。

今回のメインテーマは「大規模地震災害に備える ～能登半島地震被害の教訓と課題～」で、第 1 部のシンポジウムで国土交通省と宮崎県による講演と、第 2 部の技術発表会で 6 件の技術発表が行われる予定でしたが、8 日から 11 日にかけての九州地方での豪雨災害への対応のため、国土交通省による講演については



写真-2 熱心に説明に聞き入る来訪者



写真-3 液状化実験の様子



写真-4 シンポジウムの会場となった宮崎大学
コンベンションホール

急遽中止となりましたが、他の講演・技術発表は予定通り行われました。

本協会からは次の 2 件の技術発表を行いました。

- ① 「能登半島地震での耐震化管路施設の追跡調査報告」
- ② 「フロートレス工法の原理と設計手法」

九州・沖縄地区での協会工法の令和 6 年度までの実績は、ガリガリ君が 31 人孔、フロートレスが 557 人孔と、フロートレス工法への関心が高いため、発表内容はフロートレス工法をメインとし、能登半島地震での被害状況や調査内容、工法の開発経緯と設計手法をパワーポイントで紹介しました。

○ 令和 6 年度末の汚水処理人口普及状況

令和 6 年度末の全国の汚水処理人口普及率が 93.7%（令和 5 年度末 93.3%）となったことが国土交通省、農林水産省、環境省の連名で公表されました。

処理施設別の内訳を表一3 に示します。下水道の普及率は 11.8 万人、0.3%増えています。その他の普及率は各施設とも微減または変化なしとなっています。施設の整備状況に係わらず、普及率の推移が人口の増減に拠る状況となっており、今後もこのような状況が続くと思われます。

表一3 施設別汚水処理人口普及率

処理施設名	令和 6 年度末		令和 5 年度末	
	汚水処理人口 (単位：千人)	普及率 (%)	汚水処理人口 (単位：千人)	普及率 (%)
下 水 道	101,397	81.7	101,279	81.4
農業集落排水施設等	2,835	2.3	2,938	2.4
浄 化 槽	11,746	9.5	11,772	9.5
コミュニティ・プラント等	148	0.1	154	0.1
計	116,126	93.7	116,144	93.3
汚水処理未普及人口	7,838	6.3	8,339	6.7
総 人 口	123,964		124,483	

編集後記

・9 月に入っても暑い日が続いていますが、蟬の鳴き声もすっかり聞かなくなり、少しずつ秋が近づいています。4 月の総会に始まり、研修会・講習会、下水道展と、本協会の業務を無事に進めることができました。9 月以降もいくつかの展示会への出展や行事、委員会の開催等が予定されており、年が明けると来年度の総会準備が始まります。なかなかひと息がつかない業務が続きます。

・直前の日向灘沖の地震と豪雨被害のため直前に中止された昨年の宮崎でのシンポジウムでしたが、今年も宮崎での震度 4 の地震、九州地方での豪雨被害と、昨年と同じパターンとなり実施が心配されましたが、ほぼ予定通り開催され、協会工法の紹介をすることができました。また、異分野の方々と情報交換や意見交換を行うことで、非常に貴重な経験を積むことができました。

・今月の写真は、支部総会で訪れた福岡市福岡城址外堀の蓮の花です。6 月から 9 月初旬にかけて、濠を埋め尽くして咲く真っ白な蓮の花は、夏の強い日差しを受け一層輝きを増しています。大濠公園一帯では、この他にも睡蓮やハイビスカスなど、夏を彩る花々を楽しむことができます。